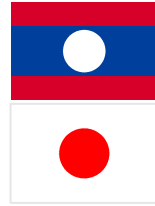


ラオス通信 — ໂທລະຄົມ ລາວ —

発行日 平成27年4月21日 Vol.4 ~国の概観 その②~



4月は新年！！

ラオスは4月は新年(ピー・マイ)を迎えました。14日から16日にかけて各地で水かけ祭りが開催されました。ラオ人が1年のうちでもっとも心待ちにしている時期です。今回は民族や言語について触れていきます。

50の民族が暮らしている！！

ラオスは、50ほどの少数民族が暮らしていると言われていたますが、正確な数字はわかっていません。居住地域別に三分類による呼称が一般的です。全人口の約6~7割を占めるラオ・ルーム(低地ラオ人)、全人口の約2割を占めるラオ・トゥン(山腹ラオ人)、残りの約1割がラオ・スーン(高地ラオ人)です。都市部にはベトナム系、中国系ラオ人が暮らしていますが、全人口に占める割合は少ないです。一般的には、国内でのラオ・ルーム族以外の地位は低いと言われています。

しかし、私が感じる限り職場や日常生活において民族の違いによる差別はないように感じます。自らの生まれについて隠したりすることもありませんし、周りも生まれに知っていることがほとんどです。また、町中でも民族衣装を着た人が歩いていることもよくあります。(右の写真は少数民族であるモン族衣装)



公用語はラオス語だが…

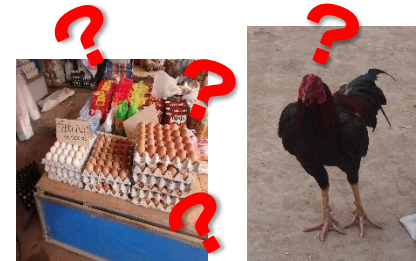
公用語は、ラオス語ですが少数民族はそれぞれに母語があります。学校では、ラオス語で授業が行われるため少数民族出身者のラオ人は出身民族の母語とラオス語を話します。中には出身民族以外の母語を話せる人もいます。

日常的に複数の言語を聞く環境にあるためかラオ人は他の言語を習得する能力に長けているように感じます。ただ、書く能力は別のように話せても大学出エリートでもラオス語を正確に書けない人もいます。



発音が難しい…

職場や日常生活ではラオス語が使われます。私もラオス語を勉強していますが、発音が難しいです。日本語で母音は5つしかありませんがラオス語は37あります。日本語で「ウ」「エ」に近い音が複数あり、ほとんど区別が付きません。また、声調※注もあるため正確に言い分けることや聞き分けることはできません。例えば、卵は「ໄຂ່」、鶏は「ໄກ່」ですがどちらも「カイ」と発音します。発音記号で書くと「ໄຂ່」は「Khai」、「ໄກ່」は「Kai」です。未だに間違いラオ人に怪訝な顔をされます。



あとがき

新年のお祝いのため4月14-16日が祝日ですが、その前から職場に来ない人や職場に来てソワソワしている人がいました。暦では13日、17日は祝日ではありませんが“当然”のように職場には来ませんでした。家で1日中酒飲み、家の前で道行く人に水をかけます。私もラオ人とお祝いを満喫しました。

町のメインストリートでの水かけの様子



注: 声の調子。音節が担う高低昇降あるいは長短の音調。声調の違いにより意味が異なる。